



学校だより

令和5年 6月 9日
第4号
四日市市立小山田小学校

☆プール掃除をしました。来週6月14日からプール開きです。



5・6年生がプール掃除をしました。PTA本部役員・体育厚生部員・ボランティアの皆様にも参加いただき、お世話になりました。美しくなったプールはろ過機点検も終えました。子どもたちが楽しみにしている水泳指導がいよいよスタートします。安全な水泳の実施につきまして、朝の健康観察や水泳キャップ・水着等の準備をよろしく願います。



さて新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが変更となり、社会見学などの校外学習も始まってまいりました。今年は平年に比べ、梅雨の時期の台風発生が多くなる可能性が高い、との報道もあります。6月2日(金)も、台風2号が梅雨前線を刺激し、強い雨が降るとのことから、下校時の安全確保のため全校5限とし、職員付き添いのもと一斉下校としました。6年生の奈良への社会見学は天候の状況により行程を変更しての実施としました。当日の判断となりましたが、保護者の皆様にご理解・ご協力いただき、無事下校することができたことに感謝申し上げます。

今後、下校時の安全確保が必要だと判断し下校時刻等が変更するときは、H&Sでの連絡となります。学校としてもできるだけ早めの判断に努めますので、対応へのご理解・ご協力をお願いいたします。

また、県外等、遠方の社会見学などの校外学習について、台風等の接近状況の予測は困難であることから、キャンセル料金等がかからない期間内で延期(または中止)の判断は悩むところです。しかし、やむをえず子どもたちの安全等を最優先に考え、直前の延期(または中止)の判断となった場合について、次のことをご了承いただきますよう、重ねてお願いします。

- ① キャンセル料が発生し、ご負担いただくことがあります。
- ② 学校での授業実施となり、社会見学実施当日の給食が止めてある場合、弁当が必要となります。



☆子育ての悩みなど、相談してみませんか？

高橋美穂さんにスクールカウンセラー(SC)として、引き続きお世話になります。また今年度から児童の抱える課題等について保護者の方により、外部機関等との連携をコーディネートするスクールソーシャルワーカー(SSW)今泉まきこさんが、西陵中学校区に配置されました。相談のご希望のある方は、学校までお問い合わせください。



☆5月19日(金) 第1回コミュニティスクール運営協議会開催



令和5年度学校ビジョンについて協議し承認いただきました。

今年度は子どもたちが本に親しめるよう、毎日朝の読書の時間を確保しました。本の楽しさを感じられるような朝の読み聞かせや図書館まつりも見直し取り組んでいます。またタブレットを活用した学び方を身に着けることや、授業や活動での「ふりかえり」を充実させることなどから自ら学ぶ力の育成をめざします。

小規模校の対応としては、他校とのオンラインや直接交流など

で、多様な相手の意見を「聞きあう・伝え合う」学習を昨年度同様、学年に応じて実施します。自分の思いや考えを適切に表現すること、相手の考えを聞き自分の学びに活かしていけるように指導していきます。引き続き地域の教育力をいかした「小山田ならではの」教育活動をととして、地域への愛着を育んでいきたいと考えています。次の方々が今年度のコミュニティスクール委員の皆様です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

- | | |
|--------|---------------------------|
| 【委員長】 | 片岡 洋将様 (元学校づくり協力者 会議委員) |
| 【副委員長】 | 須藤 成則様 (元学校づくり協力者 会議委員) |
| 【委員】 | 伊藤 浩一様 (小山田地区連合自治会長) |
| | 古市 晴久様 (社会福祉協議会青少年健全育成部長) |
| | 岸本 久義様 (民生委員児童委員会 会長) |
| | 宇佐美 律子様 (元学校づくり協力者 会議委員) |
| | 矢田 栄子様 (主任児童委員) |
| | 伊藤 恵子様 (主任児童委員) |
| | 玉置 昌司様 (R5年度PTA 会長) |



☆委員の方々より

「読書もデジタルの時代であるが、アナログでも読むことを大切にしてほしい。」

「10分間の読書は高学年には短いのではないかな。」

「読書は大切だと思う。小学校から習慣をつけてほしい。」

「学校の図書を充実させてほしい。」

「タブレットがあるのでお手本となるものを見ながら作品をつくることがあると思う。以前は、すべて自分で考えて表現していたと思う。独創性を発揮する学習場面も大切にしたい。」

「小規模校対策の取組は大変よいと思う。いつもの友だちではない相手との交流を進めてほしい。」

「コミュニケーション力をつけてほしい。自分の思いや考えを表現することに自信がない様子である。」

「子どもを交通事故から守るためにも、地域の連携をこれからも大切にしていきたい。」

